

第 26 回医療薬学公開シンポジウム開催報告

旭川医科大学病院薬剤部
シンポジウム実行委員長 松原 和夫

第 26 回医療薬学公開シンポジウムは、平成 19 年 6 月 30 日、北海道旭川市の大雪クリスタルホールにおいて、日本医療薬学会の主催、北海道病院薬剤師会、北海道薬剤師会、旭川薬剤師会、旭川病院薬剤師会の共催にて「これからの薬剤師職能を考える」というメインテーマで開催した。当日は、道内はもとより全国各地から病院薬剤師、保険薬局薬剤師、薬学系大学教員、製薬企業関係者等の参加があり、参加者数は 260 名を越えた。

これからの薬剤師の職能を考える上で新しい取り組みについて招待講演をお願いした。平井みどり先生には、「サプリメント相談外来」という演題で、薬剤師がサプリメントの相談を受けた際に、サプリメントを選ぶだけでなく、その人が相談しようと思った背景や、健康行動を一緒に考えてあげることがサプリメント外来の役割だと話された。

橋田充先生には、「薬剤師の国際性 —世界を舞台にした薬剤師の活動—」という演題で、国際薬剤師・薬学連合(FIP)を中心とした、世界の薬剤師の職能向上への取り組みや社会活動への貢献に関しての講演をいただいた。FIP では、医療を取り巻く最新のトピックが論議されるほか、薬学教育の基本的枠組みについても議論されているということであった。

シンポジウムの基調講演では、山村恵子先生が、「抗凝固療法への取り組み—薬剤師外来『ワーファリン教室』の目指すところ」という演題で、ワーファリン適性使用に薬剤師が積極的に関わることで、よりよい血栓塞栓症への管理ができるという講演をしていただいた。

シンポジウムの一般講演では、旭川医大病院薬剤部の小野先生が「薬剤師喘息外来の取り組み」、同じく須野学先生が「がん専門薬剤師の取り組み」、北海道大学病院薬剤部の宮本剛典先生が「感染制御への取り組み」、東旭川病院の里見真知子先生が、「緩和ケアにおける薬剤師の役割」、末広みくに調剤薬局の三國亨先生が「保険薬局におけるプライマリケアの実践について」という演題でそれぞれ講演いただき、病院での喘息外来担当薬剤師および専門薬剤師の取り組み状況や緩和ケアにおける貢献、さらに保険調剤薬局の薬剤師の在宅医療に対する貢献など、各方面で薬剤師としての職能を生かした活動が紹介された。

本シンポジウムは、ほぼ会場を埋め尽くす参加者がおり、総合討論でも活発な質問・意見が出された。これをきっかけに、多くの薬剤師が自身の職能を伸ばすことを真剣に考え、将来の薬剤師像を考える礎になったのではないかと思われる。